

肌

つややかな肌を伝う滴

昨日

燃え立ち

そして夜を迎えた

冷えきった今は

ふたたび欲しているのがわかる

「渴きを潤すことと引き換えに

よろこんで

私は赴く」

知らずともよい

その必要はない

飲むことは

意思とは異なる

己を費やすこと

その自由

恐怖など、もう麻痺している

現在の先にあるものなど見えない

だから現在を喰らい尽くす

この肌の下に潜む作用には

浴びるほどのカンフル剤をくれてやる

明日

翌日

そのために生かすのだ

(2005.11.4)